

日本言語技術教育学会 事務局通信 第46号

2016年12月10日（土）

第26回東京大会役員

事務局長	渡邊洋子
事務局長代理	高木輝夫・開田晃央
事務局次長	遠藤直美・江頭久美子・飯村真由美
会計	斉藤美智子・中村麻里那
書記	坂本要
事務局	岩上賀子・加藤勢津子・川又智子・野村仁 比佐中・高橋勲・京野真樹・大淵康孝 直井聡美・高野美優・久保田愛弓
大会実行委員長	増田泉

師走の候、学会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

去る2016年8月6日（土）に、法政大学において日本言語技術教育学会第26回大会（東京大会）が開催されました。「言語技術が見える授業づくり—『ごんぎつね』『天気を予想する』で身に付けさせる言語技術」をテーマに、午前は「天気を予想する」の二つの模擬授業と提案授業の検討を、午後は「ごんぎつね」で同様に模擬授業と提案授業の検討という日程で行われました。138名の参加者を迎え、熱心な討議が行われました。

今年度から、事務局は東京神田支部から茨城支部に変更となりました。また昨年度から通信は本学会のホームページの掲載となっています。

本学会のホームページのアドレスは次のとおりです。ご活用ください。

<http://ngkg.net/>

ここでは次回27回大会（名古屋大会）案内などを「事務局通信」としてお送りいたします。

I 日本言語技術教育学会「第26回大会（東京大会）」終わる

2016年8月6日（土） 会場：法政大学（東京都）

言語技術が見える授業づくり

—「ごんぎつね」「天気を予想する」—で身に付けさせる言語技術

1 大内善一会長からのメッセージ

日本言語技術教育学会の皆様

第26回東京大会も皆様のご参加により盛会のうちに開催することが出来ました。

東京大会のアンケートへのご協力を頂きありがとうございました。

ご参加下さった皆様には心から感謝申し上げます。

さて、本大会より学会事務局が茨城支部に移転致しました。これに伴い、学会ホームページもリニューアル致しました。新たに「学会の歩み」を掲載し、「東京大会アンケート」、各支部の活動状況などが掲載されております。

今回の東京大会では、会長より「基調提案」をさせて頂きました。また、この提案は限られた時間の中で行いましたので、提案内容に関する「補説・解説」を併せてホームページに掲載致しました。是非ともご覧下さり、ご意見を頂戴頂きたく存じます。

言語技術教育の要諦は、つまるところ教師と子ども達のことば遣いの精度を高めていくところにあります。ことば遣いの生徒を高めていくことが、国語教育はもとよりあらゆる授業の向上発展に寄与するはずであります。

来年、2017年名古屋大会は、7月29日（土）に開催されます。皆様の積極的なご参加によって、充実した大会にして頂きたいと存じます。会員の皆様のご協力をお願い致します。

2 第26回大会の日程

9:20 受付開始
9:40 開場・諸連絡 全体司会 渡邊洋子(事務局長)
9:50 開会の挨拶・基調提案 大内善一(学会会長)

第一部

論理的文章教材

授業Ⅰ 10:15 ～10:35(20分) 富樫いずみ(北海道・栗山小学校)

授業Ⅱ 10:40 ～11:00(20分) 野口芳宏(植草学園名誉教授)

11:10～12:20 提案授業の検討(70分)

司会 光野公司郎(共栄大学)

授業者 富樫いずみ 野口芳宏

登壇者 今井東(群馬県・太田市立旭小学校)・大貫眞弘(東洋大学)
國府田祐子(東京福祉大学短期大学部)・篠原京子(常葉大学)
高橋秀一(山形県・広幡小学校)・柳谷直明(北海道・妹背牛小学校)

12:20 諸連絡(昼食場所・総会案内等)

12:25 昼休み, 理事会(55・58年館 858教室)

13:25 学会総会(55・58年館 844教室)(活動報告, 会計報告, 予算案の審議等)

第二部

文学教材

授業Ⅲ 13:40～14:00(20分) 岩下 修(愛知県・名進研小学校)

授業Ⅳ 14:05～14:25(20分) 佐藤康子(青森明の星短期大学)

14:35～15:45 提案授業の検討(70分)

司会 長谷川祥子(北海道教育大学)

授業者 岩下修・佐藤康子

登壇者 小森茂(青山学院大学)・鶴田清司(都留文科大学)・望月善次(岩手大学名誉教授)
照井孝司(岩手県・せせらぎ国語教室)・富樫忠浩(北海道・早来小学校)
中村孝一(常葉大学)

- ・第一部, 第二部とも前半が模擬授業、後半がその検討で、「大会テーマ」を解明し深める。
- ・参加者との意見交流も含め、言語技術による教育改革等について問題提起を行う。

15:50 閉会の挨拶 野口芳宏(学会副会長)

15:55 諸連絡, 懇親会案内他

16:20～17:20 懇親会

3 第26回総会

大会の中で総会がありました。そこでご承認された決算と予算を掲載します。

2016年度 決算報告

2016年8月6日(土)

日本言語技術教育学会事務局長 渡邊洋子

(学会会計 小川智勢子・西山悦子・斉藤美智子・中村麻里那)

「2016年度」は第25回大会当日の2015年7月19日から2016年8月5日までです。今回の決算には第25回大会の参加費、経費等が含まれています。そのかわりに第26回大会の参加費、経費等は除いてあります。第26回大会参加費、経費等は来年度の決算で報告致します。

I 収入	計 1, 746, 279円
(1) 前年度よりの繰越金	926, 979円
(2) 第25回茨城大会参加費	727, 000円
4000円(当日会員参加費) × 62人 = 248,000円	
4500円(当日非会員参加費) × 54人 = 243,000円	
2000円(学生参加費) × 32人 = 64,000円	
4000円(懇親会費) × 43人 = 172,000円	
(3) 新規会員学会費	75, 000円
3000円 × 25人 = 75,000円	
(4) 『言語技術教育』22号・23号・24号・25号頒布代	17, 300円
500円(22~24号) × 25冊 = 12,500円	
600円(25号) × 8冊 = 4,800円	

II 支出	計 440, 293円
(1) 第25回茨城大会経費	377, 012円
①大会運営費	105,472円
②懇親会費	149,240円
③『言語技術教育』第25号印刷代	122,300円
(2) 文具代・コピー代等	3, 218円
(3) 通信費(宅急便代・葉書代等)	6, 923円
(4) 会議費(9/5理事会運営費用)	52, 708円
(5) その他(振込手数料等)	432円

III 繰越金	計 1, 305, 986円
収入計: 1, 746, 279円 - 支出計: 440, 293円 = 1, 305, 986円	

以上

2017年度 予算案

2016年8月6日(土)

日本言語技術教育学会事務局長 渡邊洋子
(学会会計 齊藤美智子・中村麻里那)

「2017年度」は本日第26回大会当日の2016年8月6日から来年度第27回大会の前日までです。今回の予算には第26回大会の参加費、経費等が含まれています。そのかわりに第27回大会の参加費、経費等は除いてあります。第27回大会参加費、経費等は来年度の予算に組み入れます。

I 収入 計 2,045,986円

(1) 前年度よりの繰越金	1,305,986円
(2) 第26回大会参加費(見込み)	710,000円
4000円(当日会員参加費) × 60人 = 240,000円	
4500円(当日非会員参加費) × 60人 = 270,000円	
2000円(学生参加費) × 20人 = 40,000円	
4000円(懇親会費) × 40人 = 160,000円	
(3) 新規会員学会費	30,000円
3000円 × 10人 = 30,000円	

II 支出 計 2,045,986円

(1) 第26回大会経費	550,000円
(2) 文具代	50,000円
(3) 通信費(理事会・事務局通信、その他)	100,000円
(4) 会議費(理事会、事務局会議等)	200,000円
(5) 諸雑費(印刷費、アルバイト代等)	100,000円
(6) 予備費	1,045,986円

以上

Ⅱ 『言語技術教育 第26号』

第26回大会に合わせて『言語技術教育 第26号』を冊子として作成しました。その目次を紹介いたします。ご覧になりたい方は、第27回大会（名古屋大会）にて販売いたします。（500円の予定）

基調提案

大内善一

第一部前半 模擬授業と提案 説明文教材「天気を予想する」

- ◆メモ、再話を用いた説明的文章の読解指導（指導案） 富樫いづみ
- ◆メモ、再話を用いた説明的文章の読解指導（提案） 同
- ◆学習用語と文体加工の指導（指導案） 野口芳宏
- ◆学習用語と文体加工の指導（提案） 同

第一部後半 提案授業に期待すること

- ◆論理的な文章表現の指導 市毛勝雄
- ◆他教科の学習で使える言語技術教育を教える その2 高橋秀一
- ◆汎用性の高い「学習用語」とそのスムーズな指導法を期待する 柳谷直明
- ◆「書くために読む」というゴールに向けた提案授業を 今井 東
- ◆説明的な文章の指導事項と言語技術教育との関係性 光野光司郎
- ◆授業者は教材の「何」を授業するのか 大貫眞弘
- ◆「論理的文章を書く」ための基本的な指導 國府田祐子
- ◆「論理的文章を書く」ための手本としての読みの授業 篠原京子
- ◆二十一世紀型能力（学力）と言語技術教育—物語教材を例に一 佐藤洋一
- ◆その先を予想する 渡邊洋子
- ◆説明文の学習指導 岩崎 淳
- ◆「表やグラフを使って文章を書く」につなげる言語技術 増田 泉
- ◆資料の効果的な使い方を学び、発信への基礎を固める 西山悦子
- ◆（一般化・汎用化）につなげる言語技術 吉川和良
- ◆子どもが必要感をもって学ぶ授業 加藤勢津子
- ◆文章構成を批判的に検討する技術が明らかになるか 高橋 勲
- ◆提案授業に期待すること 一言語を中心に置いて一 開田晃央
- ◆必然性のある「学習用語」指導 渥美清孝
- ◆提案授業への二つの期待 高木輝夫
- ◆論理的文章の読み方・書き方を教える授業を 田邊 泰
- ◆「書く」につなげる「読む」技術 渡辺真由美
- ◆提案授業からの広がりを期待したい 坂本 要
- ◆提案授業に期待すること 比佐 中
- ◆本教材の価値を子どもと共有し、確実に力のつく授業を 徳山 大輔
- ◆「質の高い学び」(ディープラーニング)のための言語技術教育を 有田弘樹
- ◆提案授業への期待 山下 亘
- ◆キーワード、文章構成、資料説明の型指導する 小川智勢子

第二部前半 模擬授業と提案 文学教材「ごんぎつね」

- ◆人物像を把握する技術（指導案）
- ◆人がら・人物像を理解させる一技術（提案）
- ◆言語技術が見える授業づくり（指導案）
- ◆意欲をもって読み進める過程で身につく言語技術（提案）

岩下 修
同
佐藤康子
同

第二部後半 提案授業に期待すること

- ◆「技術」の定位と提案の明確化
- ◆提案授業に期待すること―「ごんぎつね」の言語技術教育
- ◆『ごんぎつね』で物語文の読み方を学ぶ
- ◆小学四年は悲劇の物語を喜ぶか
- ◆必要性を実感する言語技術の授業を
- ◆提案授業に期待すること
- ◆「教科力」と「授業力」を示す
- ◆国語学力を形成する「学習用語」指導
- ◆文学教材は七つの言語技術の指導を中心に
- ◆文学教材で身につける言語技術
- ◆言語技術の確かな学びが実感できる授業
- ◆国語科の特質を踏まえた資質・能力の捉え直しを
- ◆文学的文章を読む「楽しさ」を教える提案授業を期待する
- ◆描写の速い音読、人物像をとらえる指導
- ◆提案授業に期待すること ―言語技術教育の本質―
- ◆全ての児童への学力を保障する授業を
- ◆言語技術が見える授業づくりのために
- ◆身につけさせたい力を明確にした授業づくり
- ◆現代社会をたくましく生き抜く力を育てる言語技術教育を
- ◆物語・小説の構造を把握する指導をしよう（「気持ち」指導をやめよう）
- ◆「学習用語」を身に付けさせる授業
- ◆提案授業に期待すること
- ◆読み方を身に付ける物語文指導
- ◆汎用性のある力を育てるために
- ◆描写から想像する授業を

望月善次
鶴田清司
中村孝一
長谷川祥子
照井孝司
太田 等
兵藤伸彦
富樫忠浩
岩井信康
岩上賀子
遠藤直美
京野真樹
大木真智子
瀧沢葉子
飯村真由美
川又智子
野村 仁
室賀美紀
加藤洋佑
西山明人
和嶋康彦
千葉勝志
坂部貴之
原 暁子
大淵康孝

第三部 第25回大会の報告 第25回大会(茨城大会)の概要報告

大内善一

編集後記

渡邊洋子

※第1号～第21号は明治図書から刊行されております。そちらもお読みください。

- 『言語技術教育 第1号』特集 言語技術教育でどんな力がつくか (1580円)
- 『言語技術教育 第2号』特集 言語技術教育の観点から新教科書を点検する (1794円)
- 『言語技術教育 第3号』特集 言語技術教育としての『話し方・聞き方』指導を構想する
(1794円)
- 『言語技術教育 第4号』特集 この文学教材でこの言語技術を教える (2314円)
- 『言語技術教育 第5号』特集 説明的文章を使ってどんな言語技術教育を身につけさせるか
(1682円)
- 『言語技術教育 第6号』特集 論理的思考力を鍛える作文技術 (1995円)
- 『言語技術教育 第7号』特集 討論の授業がどんな言語技術教育を身につけさせるか
(1890円)
- 『言語技術教育 第8号』特集 音声言語指導の教材開発・授業開発 (2058円)
- 『言語技術教育 第9号』特集 総合的学習を支える言語技術とは何か (2205円)
- 『言語技術教育 第10号』特集 総合的学習と「読み・書き」の技術 (2058円)
- 『言語技術教育 第11号』特集 到達度・絶対評価の基準としての言語技術 (1953円)
- 『言語技術教育 第12号』特集 「絶対評価」で問われる基礎学力と結果責任 (1995円)
- 『言語技術教育 第13号』特集 二十一世紀に求められる言語技術とは何か(1760円)
- 『言語技術教育 第14号』特集 「この言語技術」を「この授業」で身につける(1890円)
- 『言語技術教育 第15号』特集 「読解力の低下」問題と国語科授業の改革(1953円)
- 『言語技術教育 第16号』特集 国語学力を育てる言語技術教育(1953円)
- 『言語技術教育 第17号』特集 論理的な「言語力」を育てる国語科の授業(1953円)
- 『言語技術教育 第18号』特集 「伝統的な言語文化」を活かす言語技術(1680円)
- 『言語技術教育 第19号』特集 「伝統的な言語文化」を深める授業力とは(1890円)
- 『言語技術教育 第20号』特集 「この言語技術」で思考力・表現力が高まる(1953円)
- 『言語技術教育 第21号』特集 新教材・伝統的な言語文化をどう授業化するか(1890円)
- 『言語技術教育 第22号』特集 単元を貫く言語技術を解明する (1890円)
- 『言語技術教育 第23号』特集 言語技術が見える授業づくり
— 一学力向上に役立つ言語技術 — (500円)
- 『言語技術教育 第24号』特集 「文学教材の授業で身につけさせる言語技術」とは何か
— 「ごんぎつね」を例に — (500円)
- 『言語技術教育 第25号』特集 言語技術が見える授業づくり—「大造じいさんとがん」
「和の文化を受けつぐ—和菓子やさぐる—」で身につける言語技術— (500円)
- 『言語技術教育 第26号』特集 言語技術が見える授業づくり—「ごんぎつね」「天気を予想する」
で身につけさせる言語技術— (500円)

Ⅲ 日本言語技術教育学会 第27回大会(名古屋大会)について

開催日時：2017年 7月29日(土) 9:00~16:30

開催場所：名進研小学校 (名古屋市守山区緑が丘853-1)

1 参加申し込み方法、懇親会など

(1) 第27回大会(名古屋大会)では【参加申込】を事前に行って頂いた方は、非会員に限り、参加費4500円を4000円とさせていただきます。

会員4,000円、非会員4,500円、学生2,000円。 懇親会4,000円。

(2) 葉書として送付した「会員証」を、学会当日にお持ちいただき、受付でご提出ください。

受付では氏名・住所・会員か否か等の記載・確認をいたします。

(3) 座席は先着順です。受付で案内します。必ず受付を通過してください

(4) お問い合わせは学会事務局長 (開田晃央) まで(下記メールのみ)。

E-mail kouheiwaka@gmail.com

Ⅳ 理事会の日程

・日時 2017年 7月29日(土) 12:00~13:00(学会当日)

・場所 名進研小学校

※ ご欠席される理事の方は、議事の審議・承認について議長にご一任いただきますよう、よろしくお願いいたします。

Ⅴ 新規会員の申し込みについて

現在の日本言語技術教育学会員数は、630名程度となっております。本学会の特色は、研究者も現場の教員も社会人も、皆が同じ土俵に立って自由に意見を交換できることにあります。また、常に社会の要請をいち早く察知し、今日的なテーマ設定および提案をしております。

このような本学会に、ぜひまわりの方々を会員にお誘いください。

入会は、下記の口座に3000円を振り込んでいただければすべて完了します。

年会費制ではないので、一回振り込むだけです(電信振込はお避けください)。

事務局変更に伴い、「銀行及び口座番号」が新しくなりました。お気を付けてください。

「筑波銀行見和支店」 店番号104

口座番号： 1035206

※3 学会会場の受付でも入会手続きが可能です。

Ⅵ 学会ホームページ

学会のホームページは以下のとおりです。ご活用ください。

日本言語技術教育学会ホームページ
<http://nggkg.net/>